

## 平成20年度 水道事業・下水道事業会計決算

# 経営効率アップで純利益を確保

水道部では、平成19年度から平成23年度までの5年間の経営の指針を定めた「江別市水道事業中期経営計画」と「江別市下水道事業中期経営計画」を平成19年2月に策定しています。

今回、平成20年度決算の概要を中期経営計画との比較を交えてお知らせします。

### 厳しさを増す経営環境

平成20年度の水道事業の実績は、前年度と比較して総給水量が2割程度減少しており、上下水道の料金収入の元となる「有収水量」も前年度比で2割ほど減少しました。そのため、前年度と比較して営業収益が水道事業で約8000万円、下水道事業で約1億3000万円減少するなど、厳しい経営環境となりました。

この数年における市内人口の状況を見ると、依然として減少傾向が続いていることから、今後も有収水量の減少は続くと考えられます。

### 経営の効率化で原価を圧縮

河川から取水した水を水道水にしたり、各家庭から排出された汚水を処理して川に流したりするためには、多くの費用がかかります。

道部の予算や人材のほとんどがこれらの業務に充てられています。

□原価の状況 (単位:円 ※ ( ) 内は19年度)

	原 価	前年度比
(水道)給水原価	181.91 (186.42)	△ 4.51
(下水)処理原価	96.64 (101.22)	△ 4.58

水道水をつくる費用(給水原価)と汚水を処理する費用(処理原価)は、毎年の人件費や物件費により変動しますが、平成20年度は、こうした費用の圧縮を図り、給水・処理原価とも前年度より1立方メートルあたり約4・5円下がりました。原価の圧縮は、以前より事業にかかるコストが軽減されたことになり、その分経営が効率的になったと言えます。

### 純利益は計画目標を上回る

平成20年度の営業収益(本業の

収益)は大変厳しいものとなりましたが、特別利益として江別市水道サービス公社の解散に伴う残余財産を引き継ぐ一方で、費用の圧縮に努めた結果、上下水道事業とも営業・経常利益が、中期財政計画の目標を上回り、2年連続で計画を上回る純利益を確保することができました。

□損益の状況 (単位:百万円)

	水道事業	下水道事業
営業収益	2,261	2,686
営業費用	1,819	1,882
営業外収益	8	57
営業外費用	154	633
特別利益	11	8
特別損失	15	7
純利益(実績)	292	229
純利益(計画)	213	140

この純利益は、その全額が「減債積立金」として積み立てられ、過去の起債(借入金)の返済に充てられます。

### 経営状態はおおむね良好

財務状況などから経営状態を知るために用いられる各種経営指標

を見ますと、江別市の上下水道事業は高い収益性があることがわかります。

□経営指標 ※ ( ) 内は20年度経営計画

	水道事業	下水道事業
総収支比率	114.7 (110.2)	109.1 (105.2)
営業収支比率	124.7 (123.0)	142.7 (143.5)
累積欠損金比率	0 (-)	0 (-)

を維持しています。

### 中期経営計画を見直し

平成21年度も後半にさしかかりましたが、収益の飛躍的な増加が見込めない中で、経営環境は今後も厳しい状況が続くと考えられます。

「累積欠損金」を計上する事業体が全国的に少なくない中で、江別市の上下水道事業は、累積欠損金がなく、中期経営計画の目標値との比較においても、当年度の目標値をほぼ達成しており、健全な経営を維持しています。

経営計画の見直しでは、3年前の見込みよりも人口や有収水量が減少していることから、いかに少ない費用で市民へのサービスを維持向上させるかという視点で検討していきます。

上下水道は市民生活の基本となるものです。安全で安心できる生活を、将来にわたり市民の皆さんに約束するため、必要な上下水道設備などを整備・維持していくとともに、経済情勢が厳しい昨今において、家計の大きな負担とならないためにも、現行料金を維持できるように引き続き経営努力を重ねてまいります。

今後とも、皆さんの上下水道事業に対するご理解とご支援をよろしく願います。



詳しい決算の状況(決算書)および「中期経営計画」は、水道部総務課財務係(☎385-1214)で配布しています。また、水道部ホームページ(<http://www.city.ebetsuhokkaido.jp/suidou/suidoutop.html>)でもご覧いただけます。

## 災害時に威力を発揮

## 市内に5か所の緊急貯水槽

緊急貯水槽一覧表

No.	施設の名称	設置場所
1	江別太小学校緊急貯水槽	朝日町25番地
2	飛鳥山公園緊急貯水槽	緑町西2丁目11番地
3	若草公園緊急貯水槽	野幌町6番地
4	とちのき公園緊急貯水槽	野幌若葉町32番地
5	大麻東公園緊急貯水槽	大麻東町35番地



平成7年の阪神淡路大震災の時に、ライフラインとしての水道がいかに重要であるかをあらためて認識しました。

水道部では、それを機に、災害時に給水確保が行えるように、既存の配水管に緊急遮断弁を設けた緊急貯水槽を平成8年度から計画的に設置し、災害に強い水道施設の整備を行ってきました。

緊急貯水槽は、平成14年度までに江別太小学校敷地内、飛鳥山公園内、若草公園内、とちのき公園

内、大麻東公園内の市内5か所に設置しました。

規模は、直径2.4m、長さ17.4m、貯水量50立方メートルで、地下1.2メートルに埋設されており、通常は配水管と接続されていることから、常にきれいな水が流れています。

一方、地震・災害などにより配水管が破損し、水圧が低下した時には、緊急遮断弁が自動的に閉まり、水道水を供給する貯水設備となり、手動ポンプでくみ上げられます。



江別太小学校敷地内で実施された緊急貯水槽の説明・体験会

この貯水量50立方メートルは、地震発生直後の混乱期の3日間、生命維持に最低限必要な水量として、一

人一日当たり3リットル、約5500人への供給が可能です。

ただ、地域の皆さんに緊急貯水槽の存在を知っていただかないと、緊急時に機能を発揮することができないため、毎年地域別に緊急貯水槽の説明会を開催して、実際に設置したポンプで、水をくみ上げる体験をしていただいています。

使われないことが一番ですが、災害時には、私たちの水を供給してくれる緊急貯水槽があることをご認識ください。

### 水道料金のお支払いは 便利な口座振替で

#### 口座振替利用の方へ

経営の効率化と環境問題への配慮から、領収書の送付を省略する取り組みを実施しています。領収書の不要な方は、水道部営業センターへ電話でご連絡ください。  
 (詳細) 営業センター ☎ 385-1215



### 水道今昔②

## 全体像も見えない中で 上水道へゴーサイン

昭和29年市議会の様子



戦後間もないころの江別の水源は井戸が主体でしたが、神社山(萩ヶ岡)の井戸の水位が人口増による使用水量の増加もあってか、年々低下し、水不足が深刻な問題となっていました。

昭和26年に水道計画が作られました。井戸水源とするものなどのため撤回され、新たな計画が必要となりました。

昭和29年2月に水源についての委託調査が行われ、江別川(現千歳川)は鉄分が多いが、ろ過装置と配水施設を設置すれば、上水道として給水できるという結論に達するのです。

3月には、町議会、江別保健所、北日本製紙(現王子特殊紙)などの水道関係者による水道委員会を発足させ、江別の上水道実現に向け勉強会も開かれました。

一方、上水道工事を昭和30年度に着工するためには、昭和29年8月までに国に対して認可申請

を行わなければならないことから、5月に急ぎ臨時町議会が開催され、議決を得ることになりました。

しかし、調査、設計のための期間があまりにも短かったため、全体設計や給水戸数などが示されず、また、事業費についてもおおむねのものだったため、町議会でも大きな議論となりました。町民の要望も強く、前年の江別大の教訓もあってか、賛成多数で変更の含みを残しつつも、上水道着工へのゴーサインが出されました。

この議決を急いだ理由は、江別町が昭和29年7月1日の市政施行の必須条件でもあったためです。

昭和29年7月20日、古田島初代市長により、建設大臣と厚生大臣あてに上水道設置の認可申請が出されるのです。

(資料・江別水道史)



平成21年度から平成30年度までの

江別市水道ビジョンを策定

これからも安全で安心できる水道水を安定供給するために、平成21年度から平成30年度までの「江別市水道ビジョン」を策定しました。

このビジョンでは、水道事業を取り巻く環境分析や現状の課題を抽出し、その課題を解消する施策や目標となる指標を示しています。

内容は、「安心と安定を未来につなぐ」を基本理念として、水道施設、管路の耐震化、水質管理の強化、財政の健全化などの基本施策について、今後の方向性などを

全7章で構成しています。

特に、水道施設や設備を適正に運転管理・維持管理するとともに計画的な改良更新、耐震化の実施や応急体制の充実など、ハード・ソフトの両面から災害に強い水道を目指すこととしています。

また、将来にわたって安全でおいしい水を市民の皆さんにお届けするために、財政の健全化と業務の効率化を図っていくものとしています。

なお、このビジョンに対してのご意見を9月1日から30日まで募

集（パブリックコメント）を行いました。ご意見はありませんでした。

この「江別市水道ビジョン」は、水道庁舎内営業センター・水道整備課（荻ヶ岡1-4）で閲覧できます。

水道・下水道施設見学会

参加者の多くが

水道事業に理解を深める

平成21年度の水道・下水道施設見学会は、53人の参加で6月25日に開催しました。

見学会は、江別市内では上江別浄水場と江別浄化センターのほか、江別市も水の供給を受けている恵庭市の漁川ダムでした。

参加者アンケートの結果では、



江別浄化センターで熱心に説明に聞き入る参加者の皆さん

るほか、市ホームページ（http://www.city.ebetsu.hokkaido.jp/suidou/suidoutop.html）にも掲載しています。

【詳細】水道部水道整備課 385-216

江別市の水道料は高い？

35市中6番目に低い



最近、江別市内に転入された方から「江別に来たら、水道料が高くなった」というお話を電話などでいただくことがあります。

江別市の水道料金・下水道使用料は、使用水量が8立方メートルまでは定額ですが、9立方メートル以上は水量に応じて金額が増える仕組みになっています。

この料金を道内の他の都市と比較してみましょう。

例えば、Aさん宅の使用水量が毎月17立方メートルの場合で比較したのが次のグラフです。

全市平均	6,010
千歳市	3,918
札幌市	3,978
苫小牧市	4,270
函館市	4,396
北斗市	4,514
江別市	4,740
小樽市	4,914
旭川市	5,047
室蘭市	5,081
岩見沢市	5,096

札幌市や千歳市と比較すると800円程度高いのが現状ですが、全道平均と比較しますと1,200円程度料金が低く、近くの岩見沢市や小樽市と比較しても100円～300円程度料金が低くなっていて、江別市は、道内35市のうち6番目に料金が低い市となっています。

水道部では、市民生活を守るため、必要な上下水道設備などを維持・整備するとともに、世界的不況に見舞われている昨今、ムダを省いた経営を行うよう日々努め、可能な限り現行料金を維持するよう引き続き経営努力を重ねてまいります。

深川市	7,657
赤平市	8,068
夕張市	9,198

水道部では、市民生活を守るため、必要な上下水道設備などを維持・整備するとともに、世界的不況に見舞われている昨今、ムダを省いた経営を行うよう日々努め、可能な限り現行料金を維持するよう引き続き経営努力を重ねてまいります。

60代近くが初参加の方でしたが、5回目という熱心な参加者も。また、「江別市の水はおいしいですか」の設問では、70代の方が「おいしい」、「まあまあ」と答え、「普通」と答えた方を合わせると90代となりました。逆に「今一つ」と答えた方は8代、「まずい」と答えた方は2代でした。

普段、「流しなどで下水を汚さない取り組みを何かしていますか」の設問では、63代の方が「取り組んでいる」と答え、参加者の意識の高さが伺えました。

さらに、「今日の見学会で安全でおいしい水道水づくりや環境にやさしい汚水処理について理解が深まりましたか」の設問では、92代の方が「大変深まった」、「深まった」と答えていました。

CO<sub>2</sub>削減に貢献している

水道水を飲みましょう

うまい 安い

江別市の水道水は、ミネラル分もあって、ミネラルウォーターとひけをとりにません。原価から算出すると500ミリリットルで、なんと0.09円です。

安くて、ペットボトルを出さない環境にやさしい、江別市の水道水をもっと飲みましょう。

冬期 認定料金

実際に使用した水量

□認定水量より少ない場合 精算月の料金を減額または多くいただいた料金をお返しします。

□認定水量より多い場合 精算月に使用した分に、認定期間中の不足分を合算して、支払っていただくこととなります。

使用水量の変動が見込まれるときは、ご連絡ください。

【詳細】営業センター料金担当 ☎ 385-4987

雪解け後の精算